

口唇口蓋裂

見た目に悩むお子さんと ご家族への生活の場におけるケア

- ご家族・園・学校がチームとなって -

口唇口蓋裂の症状や治療

講演：彦坂 信 (形成外科医師・成育医療研究センター)

あなたの笑顔、あなたのストーリー：口唇口蓋裂に関わるボディイメージと心理社会的側面の理解
Your smile, Your story: Understanding body image and psychosocial aspects concerning Cleft Lip and Palate

講演：マーティン・パーソン (心理学・Kristianstad大学)

日本語翻訳あり

顔を育てる：患児や家族の生活の場での心理社会的課題とチームとしての支援

講演：松本 学 (公認心理師・東北大学病院形成外科・共愛学園前橋国際大学)

(講演後、質疑 10分)

市民公開講座

Open Lecture for Citizens

2025年

10月22日 水

14:40 - 16:00 (80分) 受付開始：14:00-

国立京都国際会館 本館1階 Room D

開催形式

現地開催のみ ※WEB配信はございません。

対象者

市民のほか、患者・家族、心理職、教育・福祉・医療関係者、スポーツ少年団等児童生徒に関わる関係者

参加費

無料

定員

200名 ※事前申込制 (当日、空席がある場合は、直接会場にて受付いたします。)

参加申込

ご参加希望の方は、お申込みフォーム (<https://forms.office.com/r/6QUktrMGZT>)
またはQRコードより、お早めにお申し込みください。【10月17日 (金) 正午締め切り】

※定員になり次第、締め切りとなります。ホームページで随時ご案内いたします。

お申込みフォーム



口唇口蓋裂は日本では500人に1人の頻度で認められ、唇・鼻や口蓋 (口の中の天井部分) に裂 (割れ目) を認める先天性疾病です。見た目、言語、咬合 (かみあわせ) などに多様な症状を生じるため、医師・歯科医師・言語聴覚士・心理師などがチームで治療にあたります。生まれてから成人に至るまで継続的な治療・支援をおこなうことで、患児は他児と同様な社会生活が可能になっています。一方で治療しても、顔の傷痕や変形が完全になくなることはありません。言語の問題が残ることもあります。このため、自尊感情や対人関係に関わる問題が生じる可能性があります。私たちの治療の目的は、この疾患をかかえたお子さんがいきいきと成長することです。このために、病院での治療はもちろんのこと、お子さんを支えるご家族、園や学校の先生方にこの病気とその影響を知っていただき、日常生活を一緒に支えていただくことが必要と考えています。こうした支援はまさに「チームとしての」支援です。ところが、こうした支援はこれまで十分にはなされてきませんでした。そこで、今回は家庭や園・学校などの生活の場における支援がどのように出来るのか、チーム医療に関わる公認心理師の立場から具体的なご提案ができればと考えています。患者様やご家族はもちろんのこと、園や学校の先生方のご参加を心よりお待ちしております。

座長 金子 剛 (形成外科医師・国立成育医療研究センター)

杉山 千尋 (言語聴覚士・大阪大学歯学部附属病院)

共同主催

日本学術会議、一般社団法人 日本口蓋裂学会

後援

京都府、京都市、日本医師会、日本歯科医師会

お問い合わせは
こちら



E-mail: cleft2025@convention.co.jp

第15回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会 運営事務局
日本コンベンションサービス株式会社 関西支社